別記(一)　　八時間制復帰ニ就テ

当社ニ於テハ大正八年十月二十六日定時残業一時間ヲ行フコトシテ八時間制ヲ布イタノデアルガ大正九年十二月一日以降定時残業ヲ廃止シ茲ニ名実共ニ八時間制ヲ実施シ之ヲ以テ爾来会社ノ就業基礎時間トスル事トナッタノデアッタ。
然ルニ大正十二年九月一日ノ震火災ニヨリ東京工場ハ全ク灰燼ニ帰シ之ガ復興ニ努力スル一方、鶴見工場ノ復旧ニ建設ノ緒ニ就キタル際トテ其ノ完成ニツキ多額ノ費用ヲ要シ会社ハ未曾有ノ苦境ニ立チ至ッタノデアル　是ニ於テ会社ハ事業復興ノ為メ諸施設及工場設備ヲ整頓シ其ノ生産能力ノ完全ナル回復ヲ得ルニ至ル迄　大正十三年三月一日ヲ以テ就業時間ヲ一時間延長シ九時間制トシ約一時間分ノ賃金ヲ行ッタノデアッタ
爾来会社ハ労働ハ八時間制ニ復スルコトヲ念トシ全従業員工人ノ不断ノ努力ニヨリ現今漸ク大体ノ復興ヲ終リ工場内ノ諸施設亦殆ド完成ノ域ニ達シ好機来ラバ一大飛躍ヲナシ得ル準備成ッタノデアル　然ルニ不幸ニシテ時恰モ会社ハ財界一般ノ深刻ナル不況ニ禍セラレ註文ハ激減ノ一途ヲ辿リ之ノ難関ヲ打開スルタメニハアラユル緊縮整理ヲ断行セネバナラヌ状態ニ立チ至ッタノデアル　是ニ於テ会社ハ一方其ノ年来ノ懸案タル八時間制復帰ヲ解決スルト共ニ他方世態ノ実情ニ鑑ミ斯ノ難局ヲ切リ抜ケントシテ来ル三月三日ヲ期シテ一時間ノ操業短縮即チ旧時八時間制ヲ実施スルコトトシタノデアル。
茲ニ一言シテ置カネバナラヌノハ一般工人特ニ常用工人ガ収入減ヲ来タスコトデ此ノ事ハ衷心同情ニ堪ヘナイノデアル　然シ大正八年八時間制ノ実施当時ニ於テハ九時間分ノ給料ヲ以テ八時間分ノ給料ニ引直シ尚震災後大正十三年九時間制ノ実施ニ際シテモ約一時間分ノ賃金ヲ与ヘテ行ッタノデアルガ是等ノ事情ト工人現在ノ実収入額ヨリ推シ一時間就業短縮ノ結果ハ他会社工人ノソレニ比較シ何等遜色ヲ見ナイノデアルカラ　彼是考ヘ合セ徒ラニ軽挙妄動スルガ如キコトナク会社ト共存共栄ノ精神ヲ以テ一層業務上能率ノ増進ニ心掛ケ一刻モ早ク此ノ難境ヲ切抜ケ得ル様協力セラレンコトヲ切望シテ已マナイ次第デアル。